神大スポーツ 2022年12月号外

KU

2022年12月9日 金曜日

発行：神奈川大学
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL 045-481-5661

# JINDAI SPORTS

「神大スポーツ」では活躍する選手・指導者達の最新記事をお知らせ！国内のみならず世界の舞台で活躍する選手情報をお届けします。

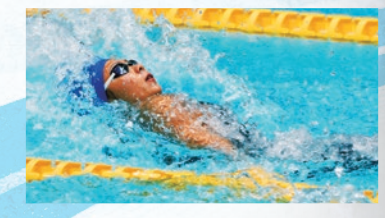
第98回 日本学生選手権 水泳競技大会

## 秀野由光選手

# 背泳ぎ100M 2連覇 ＆同200M 初優勝

8月28日（日）～31日（水）に開催された第98回日本学生選手権水泳競技大会（以下、インカレ）にて、秀野由光選手（人科・3年）が背泳ぎ100M 2連覇（1分1秒03）・同200M初優勝（2分12秒29）の快挙を果たした。

秀野由光選手（人科・３年）は、背泳ぎ１００Ｍについて「前回大会で優勝を掴みとれた中で、今年は過去の自分に負けたくない気持ちで練習に励んできた」と話し、ディフェンディングチャンピオンとして、プレッシャーとも闘いながら掴んだ２連覇だった。更に、同２００Ｍでは２位と０秒０５２の僅差で競り勝ち初優勝。２種目制覇の快挙を果たした。



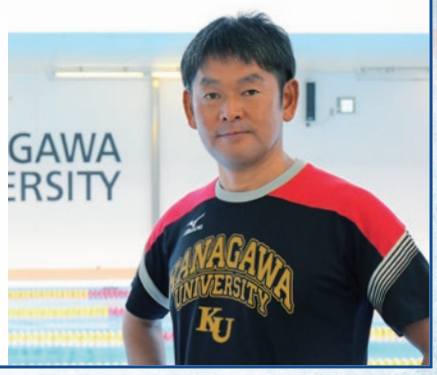
秀野選手は、今大会の印象に残ったこととして、レース直前に監督から初めて『頼んだ』と言葉を送られた瞬間を挙げた。この言葉で「初めて人に頼られる選手になりたいと心底思った」と心境の変化を語った秀野選手。人一倍の責任感を持ち臨んだレースでは、優勝という最高の結果でチームを牽引して女子総合準優勝に大きく貢献した。

今後は「目の前の目標を一つひとつクリアし、今は世界の舞台が見えてきた。ユニバーシアード、更には世界水泳の出場を目指して行きたい」と日本代表への想いを語ってくれた。

２０２３年７月に開催される、世界水泳選手権福岡大会の出場を目指す秀野選手の活躍に今後も期待したい。

## 指導者インタビュー

水泳部監督　舟橋 道成



今回の指導者インタビューは、２０２０年-２０２１年インカレ女子総合２連覇に導いた水泳部監督の舟橋道成監督に話を聞いた。

舟橋監督は神奈川大学ＯＢであり、在学中は同部にて関東学生選手権４部リーグ優勝。第一線の選手として活躍した。

卒業後は、会社勤めを経て日本体育大学大学院でトレーニング科学を専攻。その後、専門学校等での非常勤講師と並行して同部のスタッフを務め、２００１年から監督としてチームを率いている。

舟橋監督は、選手たちへの指導方針に〝アスリートである前に人格者であれ〟を掲げ、きちんと挨拶ができる、片付けができる、御礼ができるなど、当たり前のことができる人間こそが、練習の基本にも手を抜かず、競技者として成長するという。更に「人格は変えられないけど思考は変えられる」と話す舟橋監督。学生という字ごとく、学びながら生きるように、自身で考えて行動できる選手育成を目指している。

監督就任時は女子３部リーグに所属であったチームを約20年の月日を経て、名実ともに強豪校へと育て挙げた舟橋監督。

最後に「神奈川大学水泳部がここまで成長できたのは、日本一と言えるコーチ陣のお陰です」と話し、水泳・フィジカル・管理栄養士等の各専門のコーチ陣への感謝を話してくれた。

# 新倉すみれ選手 U23世界レスリング選手権大会 銅メダルを獲得！

10月17日(月)～10月23日(日)にスペイン・ポンテベドラで開催された2022年度U23世界レスリング選手権大会にて、新倉すみれ選手(人科・2年)が銅メダルを獲得した。

新倉選手は「優勝を目指して臨んだ大会だったが、準決勝で逆転負けをしてしまい、課題の残る結果となった」と振り返った。パワーとフィジカル面で世界とのレベルの差を実感した今大会を糧として、更なる高みを目指していきたいと意気込んだ。

今でこそ世界で活躍する新倉選手だが、高校時代は無名の選手であったと話す。

大学レスリングでは成績を残したいと覚悟を決め、全体練習のみならず個人練習で徹底した体力トレーニングに励んできた。更に、体格の大きい男子選手を相手にしたトレーニングでパワーを培い、海外選手にも力負けしないタックルを新たな武器として身に付けた。

新倉選手は「地道に重ねてきたトレーニングの成果が、結果として表れてきました」と世界の舞台に立つまでに成長した要因を語ってくれた。

最後に「自分が結果を残すことで、神奈川大学レスリング部の活躍を発信していきたい」と話し、今後は2023年世界選手権の代表選出を目指すという。来年も世界の強豪を相手に戦う新倉選手の活躍を期待したい。

## 国民体育大会・レスリング競技 佐川選手と宮内選手が銅メダルを獲得！

10月2日(日)～5日(水)に栃木・FUKAI SQUARE GARDEN足利で開催された第77回国民体育大会・レスリング競技において、佐川健選手(経営・4年)と宮内勇真(経営・3年)の2選手が銅メダルを獲得した。

グレコローマンスタイル97kg級に出場した佐川選手は「準々決勝では自分のスタイルでゲームの流れを作り、最後は得意技のそり投げで決める理想的な試合が出来た」と振り返り、グレコローマンスタイル130kg級の宮内選手は「戦術やパワーが一枚上手な社会人選手が相手だったが、チャレンジャーとして臨むことで納得のいく試合ができた」と話してくれた。

2選手とも目標にしていた〝国体優勝〟には僅かに届かなかったが、佐川選手は「今大会を通じて新たな課題が見つかり、まだ上を目指して強くなれると感じた」と手応えを語ってくれた。

最後に、宮内選手は「コーチ陣の指導により技術・メンタル面ともに成長することができた。来年こそは大学日本一になり、結果で恩返ししたい」とオリンピック出場経験もあるレスリング部コーチ陣への感謝の想いを語ってくれた。

佐川 健(経営・4年)

宮内 勇真(経営・3年)

## 吹奏楽部

### 全日本吹奏楽コンクール『金賞』を受賞

10月29日(土)に北九州ソレイユホールで開催された、第70回全日本吹奏楽コンクール「大学の部」で金賞を受賞した。圧倒的な演奏力で会場を魅了し、大学最多となる通算32回目の金賞受賞の快挙を達成した吹奏楽部に話を聞いた。

石橋優真部長(人科・3年)は「部員達と曲のイメージを合わせるのに苦労も多かったが、諦めずに目指してきた金賞を獲得できて良かった」と振り返る。

自由曲で演奏した『ピース、ピースと鳥たちは歌う』は、平和をテーマにした曲で、昨今の世界情勢を照らし合わせた演奏を創り上げてきた。

練習では表現力をより高める為に「作詞した伊藤康英氏の講演を聞き、戦い合う銃声や平和の象徴である鳥の姿を曲に合わせてきた」と語り、曲の背景を体現するところに力を注いだという。

「これまで支えてくれた先生方や声援くれた方に感謝の気持ちを曲に乗せて届けたい」と話してくれた石橋部長。次回は、2023年1月4日(水)に横浜みなとみらいホールで開催される定期演奏会で披露する。

## チアリーディング部・管弦楽団

### 3年ぶりに対面の合同応援

10月15日(土)に東京都立川市にて開催された第99回東京箱根間往復大学駅伝競走(以下箱根駅伝)予選会に3年ぶりの応援が響き渡った。新型コロナウイルス感染症の影響で思うように練習や活動が出来ない中、素晴らしい応援をみせてくれたチアリーディング部と管弦楽団の両団体に話を聞いた。

チアリーディング部の安部帆乃香主将代理(英語英文・3年)は「対面での練習が可能になったとはいえ、スタンツのような複数人の組技は丸2年間できていなかった。習得練習は大変ではあったが、箱根駅伝予選会でスタンツを交えた応援ができて良かった」と振り返る。管弦楽団の清水颯人団長(スペイン・3年)は「チアリーディング部と合わせての演奏や指揮者がいない演奏など初めてづくしの応援演奏だった。ただ、子どもの頃から見てきた箱根駅伝に絡んだ応援ができたことがとても嬉しい」と話してくれた。

両団体とも、箱根駅伝予選会の応援に参加したことがない部員が多数を占めている中で連携の取れた素晴らしい応援をみせてくれた。その激励は、選手を大いに鼓舞したことだろう。

安倍 帆乃香
(英語英文・3年)

清水 颯人
(スペイン・3年)